



2026年3月期 第2四半期 (中間期) 決算短信 (日本基準) (連結)

2025年11月4日

上場会社名 持田製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <https://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 宮本 憲一

TEL 03-3358-7211

半期報告書提出予定日 2025年11月10日

配当支払開始予定日

2025年12月1日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期 (中間期) の連結業績 (2025年4月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	54,985	7.6	4,967	31.0	5,179	27.0	3,856	36.5
2025年3月期中間期	51,096	3.3	3,793	△4.0	4,079	0.6	2,825	△0.5

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 5,930百万円 (131.8%) 2025年3月期中間期 2,558百万円 (△48.0%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	108.79	—
2025年3月期中間期	79.71	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	165,721	135,206	81.6
2025年3月期	160,121	130,694	81.6

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 135,206百万円 2025年3月期 130,694百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2026年3月期	—	40.00			
2026年3月期 (予想)			—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年 3月期の連結業績予想 (2025年 4月 1日～2026年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,500	5.1	7,000	△13.9	7,500	△7.0	5,400	△5.0	152.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
新規 — 社（社名）、除外 — 社（社名）
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
(注) 詳細は、添付資料P.9「2.中間連結財務諸表及び主な注記(4)中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期中間期	36,390,000 株	2025年3月期	36,390,000 株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	939,797 株	2025年3月期	939,531 株
③ 期中平均株式数(中間期)	2026年3月期中間期	35,450,360 株	2025年3月期中間期	35,451,233 株

※ 第2四半期(中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料は、2025年11月7日(金)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(重要な後発事象)	9
3. 補足情報	10
(1) [連結]設備投資、減価償却費、研究開発費	10
(2) 主要製品の売上高	11
(3) 医薬品等開発状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1)経営成績に関する説明

国内医薬品業界は、医療費抑制策が継続的に推し進められる中、毎年薬価改定が実施されるなど、引き続き厳しい環境下にあります。

当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）は、長期ビジョン「医療・健康ニーズに応えることで、グローバルにも存在価値を認められる特色ある生命・健康関連企業グループとして成長する」を掲げています。今後ますます厳しくなることが予想される事業環境を乗り越え、持続的に成長するために、2022年度にはこの長期ビジョンを具体化した「2031年のありたい姿」を策定しました。2025年度は、ありたい姿の実現に向けた「成長戦略加速の3年間」と位置づける25-27中期経営計画を策定しました。この計画では、「コア事業の収益力強化」「成長事業の継続投資」「成長を支える経営基盤強化」を重点テーマとして取り組んでいます。

当中間連結会計期間における医薬品関連事業は、引き続き「循環器、消化器、産婦人科、精神科」を重点領域として、主力製品を中心とした情報提供活動を積極的に展開しました。また、ヘルスケア事業は、皮膚科医・産婦人科医や看護師等の高い支持を基盤に、マーケティングの推進に努め、市場開拓を図りました。

当中間連結会計期間の売上高は54,985百万円で前年同期比7.6%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業は薬価改定及び2024年10月に導入された長期収載品の選定療養の影響を受けたものの、主に新薬が伸長し、売上高は51,058百万円で前年同期比7.4%の増収となりました。新薬の売上高は、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」、慢性便秘症治療剤「グーフイス」「モビコール」、肺動脈性肺高血圧症・間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤「トレプロスト」、痛風・高尿酸血症治療剤「ユリス」、及び潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「オンボー」が伸長しました。長期収載品の売上高は前年同期を下回りました。バイオシミラーを含む後発品の売上高は前年同期を上回りました。

ヘルスケア事業の売上高は3,926百万円で前年同期比10.9%の増収となりました。抗真菌成分配合のシャンプー・石鹸をはじめとする「コラージュフルフル」、及び基礎化粧品「コラージュリペア」の両ブランドにおいて売上高が伸長しました。

次に当中間連結会計期間の利益面につきましては、医薬品関連事業の売上高増加に伴う売上総利益の増加により、営業利益は4,967百万円で前年同期比31.0%の増益となりました。経常利益は5,179百万円で前年同期比27.0%の増益、親会社株主に帰属する中間純利益は3,856百万円で前年同期比36.5%の増益となりました。

研究開発の状況については、研究面では、今後成長が見込まれる新たなモダリティを取り込み、創薬パイプラインの充実を図っています。核酸医薬については、siRNA医薬の創薬研究に集中的に取り組んでおり、高度な専門性を有する人財や、創薬技術の獲得を積極的に進め、競争優位性のある創薬研究を推進しています。細胞医薬については、再生医療の知見・技術を有する企業と提携し、乳歯歯髄幹細胞SHED、高純度間葉系幹細胞REC、臍帯由来細胞「HLC-001」による治療法の開発を進めています。

臨床開発面では、関節リウマチの治療剤であるトシリズマブのバイオシミラー「RGB-19」は承認申請中です。「ユリス」の小児適応は、臨床第Ⅲ相段階にあります。月経困難症治療剤「MD-352」及び肺高血圧症治療剤「MD-712」は臨床第Ⅱ/Ⅲ相段階にあります。中国において丸紅制薬（蘇州）有限公司（旧住友制薬（蘇州）有限公司）と提携して開発を進めている高純度EPA製剤「MND-21」は承認申請中です。また、連結子会社の持田製薬販売株式会社が、高純度EPA製剤「イコサペント酸エチル「モチダ」」の製造販売承認を2025年8月に取得しました。「イコサペント酸エチル「モチダ」」は当社が製造販売している「エパデール」のオーソライズドジェネリックです。

次世代の柱の一つと位置づけるバイオマテリアル事業においては、「軟骨修復材 モチジェル」（開発コード：dMD-001）は2025年7月に製造販売承認を取得しました。2025年10月にはAUSPICIOUS株式会社と販売に関わる業務提携基本契約を締結する等、発売に向けて準備を進めています。海綿体神経損傷治療材「dMD-002」及び癒着防止材「dMD-003」は検証的治験段階にあります。

当中間連結会計の研究開発費は5,302百万円であります。

なお、2025年10月に、アンドファーマ株式会社の20%の株式を取得し、同社を持分法適用関連会社としました。

(2)財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当社グループの当中間連結会計期間末の総資産は、165,721百万円となり、前連結会計年度末比で5,599百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に有価証券が減少しましたが、現金及び預金や投資有価証券が増加したためです。負債の増加は、主にその他の流動負債に含まれる未払金が減少しましたが、支払手形及び買掛金が増加したためです。純資産の増加は、主に配当金の支払いによる利益剰余金の減少がありましたが、親会社株主に帰属する中間純利益による利益剰余金やその他有価証券評価差額金が増加したためです。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、52,717百万円となり、前連結会計年度末比で4,566百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権の増加がありましたが、税金等調整前中間純利益の計上や仕入債務の増加により4,044百万円の収入(前年同期は8,519百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形及び無形固定資産の取得による支出がありましたが、有価証券の売却による収入により1,949百万円の収入(前年同期は9,658百万円の収入)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払により1,431百万円の支出(前年同期は1,432百万円の支出)となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間はほぼ計画に沿った業績で推移しているため、2025年5月12日に公表した連結業績予想から修正は行っておりません。アンドファーマ株式会社の株式取得による連結業績予想への影響につきましては現在精査中であり、今後、業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,154	49,721
売掛金	31,617	32,901
有価証券	5,996	2,996
商品及び製品	20,686	20,612
仕掛品	2,295	1,834
原材料及び貯蔵品	10,314	11,369
その他	3,604	3,939
流動資産合計	119,669	123,375
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,519	6,677
機械装置及び運搬具（純額）	1,775	1,692
土地	6,046	6,046
その他（純額）	1,598	1,474
有形固定資産合計	15,940	15,890
無形固定資産	920	1,136
投資その他の資産		
投資有価証券	15,022	18,126
退職給付に係る資産	355	349
繰延税金資産	1,851	1,020
その他	6,362	5,821
投資その他の資産合計	23,591	25,318
固定資産合計	40,452	42,345
資産合計	160,121	165,721

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,419	10,020
電子記録債務	1,241	978
未払法人税等	1,510	1,561
賞与引当金	2,320	2,081
その他の引当金	143	133
その他	12,266	11,321
流動負債合計	24,902	26,096
固定負債		
退職給付に係る負債	3,690	3,598
その他	833	819
固定負債合計	4,523	4,418
負債合計	29,426	30,514
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	116,114	118,553
自己株式	△3,267	△3,268
株主資本合計	121,947	124,385
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,162	10,310
退職給付に係る調整累計額	584	510
その他の包括利益累計額合計	8,747	10,821
純資産合計	130,694	135,206
負債純資産合計	160,121	165,721

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日)
売上高	51,096	54,985
売上原価	25,811	28,133
売上総利益	25,285	26,852
販売費及び一般管理費	21,492	21,884
営業利益	3,793	4,967
営業外収益		
受取利息	4	57
受取配当金	204	236
その他	157	68
営業外収益合計	365	362
営業外費用		
支払利息	1	1
持分法による投資損失	67	32
為替差損	—	106
その他	9	10
営業外費用合計	79	151
経常利益	4,079	5,179
特別利益		
固定資産売却益	2	2
特別利益合計	2	2
特別損失		
固定資産除売却損	13	1
特別損失合計	13	1
税金等調整前中間純利益	4,068	5,180
法人税等	1,242	1,323
中間純利益	2,825	3,856
親会社株主に帰属する中間純利益	2,825	3,856

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	2,825	3,856
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△229	2,148
退職給付に係る調整額	△36	△74
その他の包括利益合計	△266	2,074
中間包括利益	2,558	5,930
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	2,558	5,930

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	4,068	5,180
減価償却費	1,418	1,421
固定資産除売却損益 (△は益)	11	△0
持分法による投資損益 (△は益)	67	32
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△64	△239
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△53	△195
受取利息及び受取配当金	△208	△294
支払利息及び支払手数料	8	8
売上債権の増減額 (△は増加)	5,072	△1,284
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△450	△520
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	465	△875
仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,342	2,338
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	861	△358
その他	△164	△75
小計	8,691	5,136
利息及び配当金の受取額	207	294
利息及び手数料の支払額	△8	△8
法人税等の支払額	△370	△1,376
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,519	4,044
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,700	—
定期預金の払戻による収入	12,000	—
有価証券の取得による支出	△3,000	—
有価証券の売却による収入	4,500	3,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,147	△1,058
有形固定資産の売却による収入	1	2
その他	4	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	9,658	1,949
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,417	△1,417
自己株式の取得による支出	△1	△0
自己株式の売却による収入	—	0
その他	△13	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,432	△1,431
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45	4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	16,700	4,566
現金及び現金同等物の期首残高	24,290	48,151
現金及び現金同等物の中間期末残高	40,991	52,717

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(重要な後発事象)

(アンドファーマ株式会社の株式取得による持分法適用関連会社化)

当社は、アンドファーマ株式会社が実施する第三者割当増資の引受け、ならびに、合同会社ジェイ・イー・エイチが保有するアンドファーマ株式会社株式の一部を譲り受けることによる株式取得に関する契約を2025年9月22日に締結しました。これにより、当社はアンドファーマ株式会社の株式20%を2025年10月1日付で取得し、同社を持分法適用関連会社としました。

(1) 株式取得の目的

- ① 当社の豊富なバイオシミラーの知見とアンドファーマの子会社各社の製造能力を活用した国産バイオシミラー供給体制の確立
- ② 製造・品質管理体制の最適化を通じた効率的な製造・供給体制の確立
- ③ 先発薬企業と後発薬企業の連携による後発薬の供給不安解消に向けた協働体制の確立

(2) 株式取得の相手先の名称

合同会社ジェイ・イー・エイチ (株式譲受の相手先)
アンドファーマ株式会社 (第三者割当増資の引受先)

(3) 株式取得する会社の概要

- ① 名称 アンドファーマ株式会社
- ② 所在地 東京都中央区日本橋本町1丁目5番4号
- ③ 事業内容 グループ会社経営の管理・監督
- ④ 資本金 1億円
- ⑤ 設立年月日 2025年1月6日

(4) 株式取得の時期

2025年10月1日

(5) 取得する株式の数及び取得後の持分比率

- ① 取得する株式の数 197,818,534株
- ② 取得後の持分比率 20.0%
- ③ 取得価額 16,199百万円

(6) 支払資金の調達方法

自己資金及び金融機関からの借入により充当

3. 補足情報

(1) [連結] 設備投資、減価償却費、研究開発費

1. 設備投資

	2025年3月期	2026年3月期
中 間 期	858 百万円	645 百万円
通 期	1,609 百万円	(予) 2,000 百万円

2. 減価償却費

	2025年3月期	2026年3月期
中 間 期	1,418 百万円 (うち、有形固定資産 716 百万円)	1,421 百万円 (うち、有形固定資産 698 百万円)
通 期	2,940 百万円 (うち、有形固定資産 1,525 百万円)	(予) 2,900 百万円 (うち、有形固定資産 1,500 百万円)

3. 研究開発費

	2025年3月期	2026年3月期
中 間 期	4,776 百万円 (売上高比 9.3%)	5,302 百万円 (売上高比 9.6%)
通 期	11,676 百万円 (売上高比 11.1%)	(予) 11,100 百万円 (売上高比 10.0%)

(2)主要製品の売上高

主 要 製 品 の 売 上 高 (2026年3月期 中間実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 2025年3月期		当 期 2026年3月期		対前年 同期 増減率
	中間 実績	年間 実績	中間 実績	年間 見込	
潰瘍性大腸炎治療剤 リアルダ	74	151	80	160	+ 7%
慢性便秘症治療剤 グーフィス	41	83	44	90	+ 8%
慢性便秘症治療剤 モビコール	32	66	35	66	+ 11%
肺動脈性肺高血圧症・ 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤 トレプロスト	19	42	28	59	+ 43%
痛風・高尿酸血症治療剤 ユリス	21	46	27	56	+ 29%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	29	48	22	43	△ 22%
潰瘍性大腸炎治療剤 コレチメント	2	5	3	8	+ 42%
血液凝固阻止剤 ヘパリンNa	6	13	6	13	+ 3%
後発品 (内、子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤ジェノゲスト)	151 49	313 105	162 57	348 119	+ 7% + 16%
スキンケア製品	35	71	39	74	+ 11%

(3)医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 [製品名]	開発段階	予定適応症	剤型	備考
RGB-19 〈トシリズムブ〉	申請中	関節リウマチ	注射剤	バイオンミラー ゲデオン・リヒター社から導入
FYU-981 〈ドチヌラド〉 [ユリス]	臨床第Ⅲ相	痛風・高尿酸血症 (小児適応)	経口剤	(株)富士薬品と共同開発
MD-352 〈ジェノゲスト製剤〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	月経困難症	経口剤	自社開発
MD-712 〈トレプロスチニル〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症 間質性肺疾患に伴う 肺高血圧症	吸入 粉末剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 [エパデール]	申請中	高トリグリセリド血症	経口剤	開発地域:中国 丸紅制薬(蘇州)(旧住友制薬(蘇州))と提携・開 発

【医療機器】

開発コード 〈製品名〉	開発段階	予定する使用目的 又は効果	備考
dMD-001 〈軟骨修復材 モチジェル〉	承認取得	関節軟骨損傷	アルギン酸ゲル 自社開発
dMD-002	検証的治験	海綿体神経損傷	アルギン酸シート 自社開発
dMD-003	検証的治験	術後の癒着	アルギン酸シート 自社開発

医療機器の臨床試験に関する開発段階を探索的治験と検証的治験に区分しています